

令和5年度第4回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和5年10月19日（木）午前9時30分～午前10時45分

ところ：市役所5階 502会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）
傍聴者 1人

2 内容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和5年度非核平和学習事業について（報告）
- (2) 令和5年度青少年健全育成講演会について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（8月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（10月、11月）について

【図書館】

- (1) 第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和4年度進捗状況について（報告）
- (2) 図書館主催イベント（7月～9月）について（報告）
- (3) 小平市立図書館講演会について（報告）
- (4) 東京文化財ウィーク 2023 講演会と企画展示について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 ヤングケアラーの講演会、若い年齢で責任を負って、青少年が苦勞していることをサポートしなければならないという意識を前々から持っていた。ここで、地域の子どもたちのために地域ができることを考える。社会教育の立場に立って、こういった講演会を行うことは、すごく大事だと感じた。

○委員 同じくヤングケアラーの講演会、対象が青少対、放課後子ども教室、地域教育コーデ

ィネーターと地域学習支援課が担当する組織だけになっているが、同じ学校で考えると、学校経営協議会の委員も協力員もPTAの方もいる。学校全体として共有することは、とても大切だと思う。連携して全体として取り組むことが必要ではないか。

○委員 資料No.4、中央公民館の友・遊こどもまつりを、これまでの9月開催から、夏休みに開催した理由と、今後も夏休み中に開催するのか聞きたい。参加型、体験型イベントは、子どもたちにとってすごく大事で、講師やボランティアとのふれあいもすごく貴重な体験になると思うので、ぜひ続けてほしい。

○事務局 夏休み中に実施したほうが、参加が多く見込まれるということで変更した。今後も夏休みに多くの皆さんが参加できるよう、このまま8月で進めていきたいと考えている。

○委員 資料No.7、夜の少し怖いおはなし会、小学生では保護者も一緒に行かなければならないが、5、6年生は小学生だけでいいなど決まりはあるか。

○事務局 少し怖いお話をするというので、開催時間はやや暗くなってくる夕方6時ぐらいのため、保護者の付き添いをお願いした。

○委員 資料No.7、4の内容の①少し怖いおはなし会のところに、手づくりのプログラムカードを配布とあるが、どういうものか。

資料No.6-2、5ページの項目10、学校図書館協力員への研修会の開催で、小平市ではこの研修会を行って、学校司書に任命する、そういう形と考えてよいか。

○事務局 1点目は、おはなしの演目のカードである。2点目は、令和4年度の段階では学校図書館協力員としてお願いしており、今年度から学校司書と名称の変更を行った。この学校司書は、各小・中学校に1人ずつ配置し、会計年度任用職員として任用している。要件としては、司書資格や司書教諭の資格をお持ちの方、図書館や学校図書館での勤務経験がある方ということで募集をしている。しかし、要件の資格をお持ちでも、学校の現場の経験がない方もいるので、業務をしていく上でサポートをするという意味で、研修会を重ねて、実際の業務に役立てていただいている。

○委員 公民館事業概要の94ページ、上宿公民館の健康づくり講座として実施された、身体が蘇る筋膜リリースアンド筋力アップエクササイズ①、次ページに②がZ o o mで開催とあるが、どのように企画したのか。大沼公民館の事業企画委員をしているが、地区館の講座を組むとき、こういう組み方をしたことがないので、経緯を教えてほしい。

○事務局 前年度に事業企画委員が企画し、実施する方向で公民館の事業は進められている。

94ページの上宿公民館の講座は、2回で終了する講座だったが、定員10人のところ応募が51人で非常に多かった。そのため、抽せんで落選する方に講師の協力を得て、自宅であればということでZ o o mに取り組んだ。第1回目で落選した方に声かけをして取り組んだものである。

○委員 ②のZ o o mは、その年の状況に応じて臨機応変に対応し、フォローをしたということか。

○事務局 公民館運営審議会委員や社会教育委員の会議でも指摘をいただいているが、応募で落選した方をどうフォローするかということは、今、研究をしている。定員をオーバーしたときに

は、同時にZ o o mを使ってライブ配信するなど、いろいろな形を試行的に取り組んでおり、これからも努めていく。

○委員 ブックスタート、3～4か月児健診受診者1, 313人に対応できるのは、図書館に縁がなかった方たちも、赤ちゃんがいて時間があるときにということで、とてもすばらしい取組なので、ぜひ今後も継続、さらに充実できるように期待している。

よるのおはなし会が270人とすごい人数で、暗くなってくる6時ぐらいからと伺ったが、ちょうど夕飯の時間に重なり、各館どういう時間帯で行ったのか。

○事務局 お子さんの集中力のこともあり、長々とはできない行事のため、各館、基本的に6時スタート、6時半頃終了ということで行った。

○委員 これだけ人が集まる機会を有効に使って、社会教育にあまり関係のない保護者にも、チラシなどを渡して、公民館、図書館で盛り上げてほしい。

公民館の事業内容を見て、全体的にコロナで募集人数を少し抑えているが、よく定員が集まってすばらしいと思った。

その中で、少し気になったのは、今年、関東大震災から100年であるが、防災が割合的に少し弱いのではと思った。身近な公民館の防災講座に人が集まるよう、何か工夫があるといい。

友・遊こどもまつりが夏休みに変更になった。コロナ禍で気を遣って、ドイツゲームで遊ぼうを行ったが結構にぎわっていた。これまでに比べ、保護者の参加が多くて、夏休みの開催はすごくよかったと思う。保護者も一緒に遊べる場を設けたところがよかったと思う。

○事務局 地域防災のこれからということ、今年の1月、関東大震災からちょうど100年ということ、タイムリー講演会として実施した。そのほか、防災については、事業企画委員会でもなかなか声が出ないが、必ず項目を掲載して、少なくとも一つは各館で実施できるよう努めている。なるべく企画を検討してもらえよう今後も配慮していく。

友・遊こどもまつりについて、夏休みに行くだけでなく、親子で参加できるしかけづくりがやはり大きな意味を持っていると思うので、今後もその点を併せて検討していく。

○委員 講演会で、前にとっても人数を集めた立川断層の話もすごく応募があったと思う。みんな関心があり集まると思うので、みんなが来たくくなるような講師を考えてほしい。

また、親子でという話があったが、言い方が難しく、できるだけ保護者という言い方している。親子、保護者と関連してイベントがたくさんできるといいと思う。

○議長 公民館だよりも、鈴木公民館で防災カードを使った防災体験を行う講座があった。興味のある方は、ぜひご参加を。

○事務局 今年度は、このあと防災関連が続くので、市報等で情報を確認していただければと思う。

○委員 青少年健全育成講演会について、誰でも参加できるが、とても参加者が少ないので、毎年、この対応はいかがかという話をしている。時間的なことも考えていただければと思う。午後3時から4時というのは、放課後子ども教室に関わっている人たちは参加できないので、よろしくお願ひしたい。

資料No.6-2、11ページの17と18、資料No.6-1の進捗状況に書いてある、放課後子ども教室と学童クラブの読書活動について、放課後子ども教室で、教室を持っている学校があるのか。放課後子ども教室にも読書の提供はあっていいと思った。

10月1日号の市報に、中央図書館でぬいぐるみのお泊まり会の案内が出ていた。いろいろ調べていたら、アメリカから始まったお泊まり会だそうで、子どもたちの大事なぬいぐるみを預けて。どんな対応だったのか。また、リアルタイムで、家庭にこんな状態で寝ていると教えられればいいと感じた。

○事務局 青少年健全育成講演会の開催時間については、検討していく。放課後子ども教室について、読み聞かせなどの取組を行っている教室があり、11校で実施している。

○事務局 ぬいぐるみのお泊まり会の企画は、もともと海外で始まった企画だが、十数年前から、日本の図書館でも行われ、小平市の図書館でも開館40周年の今から8年前に1回行ったことがある。それ以来、図書館としても温めていた企画である。ぬいぐるみを預かっている間に、ぬいぐるみが本を読んでいるような様子の写真、また職員が作製したぬいぐるみ用の家の中で、ぬいぐるみが楽しそうにしている写真などを撮って、ぬいぐるみを返すときに写真をプレゼントする。

預かる期間が長くなると子どもたちが寂しい思いをするので、早ければ翌日に返せるように工夫をした上で事業を実施した。

○委員 特にこれといったイベントではないが、広報について、多かったり、少なかったり、すごく増減があると思う。事業企画委員会でいろいろ吟味しているので、少ないとか、多いとか、あまりないとは思いますが。デジタルマーケティングを今、仕事で担当している関係で、内容が一番だと思うが、タイトルや、タイトルの長さ、PRの仕方、リンクの張り方など、市民との接点がどこにあるかというところ。スマホなのか、PCなのか、紙なのか。媒体関係がどこに当たるのか考えて、広報担当がどういったアクションを起こしているのか、もし参考になれば、少し一緒にやらせていただきたい。いつも届くメルマガを見ても、どこで申し込めばいいのか、リンクをどこに張っているのか、一番最後に行かないとホームに行けないなど、様々工夫するべきことがあると思った。

○事務局 広報については、世論調査などを確認すると、高齢の方は、市報で情報を得ていることがわかる。若い世代の方は、ホームページやネットの環境ということで、明確に分かれることが見てとれる。まだ市報やチラシの効果は期待できるが、若い世代を取り込むためには、ホームページや市で行っているメルマガ、ツイッター、LINEなどの媒体を使いながら工夫していくことを考えている。

また、小・中学校に対しては、校長先生にお願いして、子ども向けのチラシ等を、紙媒体ではなく、電子媒体で配布することの協力をお願いしている。そのような取組も進めているが、研究が必要と思うので、お知恵を拝借する機会があればぜひお願いしたい。

○議長 貴重な資格や経験などを持っている方がいるので、個々の公民館ではなく、全公民館の事業企画委員を対象に講座を持っていただいて、教えていただいて、勉強会のような。お願い

します。

○委員 机上配付された図書館事業概要の27ページの表5について、除籍件数の2項目めに「亡失」があって、4項目めに「紛失」とあるが、この区別を教えてください。

○事務局 利用者の手元でなくなったものは、紛失ということでカウントしている。亡失については、図書館内で行方不明になったものなど、盗難という可能性もある。令和2年度、亡失がゼロ件になっているのは、コロナ禍で蔵書点検ができなかったためゼロとなっている。

○委員 そうすると、心配になるのは、除籍の4%ぐらい、すごく増えている。盗まれている可能性もある。セキュリティー上、タグがついて、鳴るようになるなど。今タグがついていないなら、啓発していく必要があると思う。

○事務局 図書館の資料については、一定の割合で盗難があり、ICタグがついていて、入り口にICタグに反応するゲートがあれば無断で持ち出す場合には、そのゲートが反応して止めることができる。仲町図書館の蔵書、約10万点についてはそういうICタグをつけているが、その他百数十万点についてはついていない。ICタグをつけるとなると、1点につき、80円以上すると言われているので、これを100万点つけるとかなり金額がかかるため、大きな課題と捉えている。